

小型船の安全確保

これから夏季マリッジや台風のシーズンです。小型船などの船長は以下の点に注意して安全確保対策をしっかりと行いましょう。

- ・出港前に機関や燃料などを点検する
- ・航行時は常時見張りを徹底する
- ・トラブルに備え救助支援者を確保する
- ・最新の気象情報入手する



八代海上保安署 ☎0965-37-1477

2級河川「氷川」アユ釣り解禁

6月1日より2級河川「氷川」のアユ釣りが解禁されます。釣りをするには、事前に遊漁券の購入が必要です。マナーを守って釣りを楽しみましょう。

◆遊漁券 ・年券：4,000円、日券：1,000円

◆町内の販売店

Yショップいとう ☎0965-62-2302

町外の販売店については、お問い合わせください

氷川漁業協同組合 ☎0965-62-8020

立神峡だより

立神峡では感染予防対策は万全の態勢で臨む

全国的にコロナ感染が拡大する中、東京・大阪から逐次、地方へと感染の拡大傾向が見られ、宿泊施設・夜の繁華街などは軒並み閉鎖に追い込まれ、景気回復の影響が危ぶまれています。

ここ、立神峡でも昨年度はコロナの影響を受けて、宿泊客の大幅な減少に繋がり、指定管理者としての正念場を迎えました。

しかし、今年度は、地方へと観光客の足が向き始め、ようやく回復の兆しが見えています。当公園も、キャンプ場により、癒しを求めて予約が増えています。そのために、感染予防対策が急務で、トイレ・洗面所の手洗い設備の改善・トイレのウォッシュレット化など、きめの細かい工夫をしました。しかし、それでも危機管理の立場から、管理棟の入り口や室内におけるお客対応など微に入り細にわたり工夫をしています。特に、時間外はオゾン部屋内に蔓延させ、隅々に至るまで、浸透・消毒するとともに、オゾン水による消毒やオゾンによる除染・殺菌・消毒を徹底し、ゴールデンウィークを迎えました。

その結果、多くの観光客が来園したにも関わらず感染の話は聞いておりません。ご参考になれば、幸いです。



公園内には新緑の木々が満ち溢れウグイスの鳴き声が聞こえる

公園内は、新緑の木々が満ち溢れ、多くの鳥の鳴き声が聞こえ、特に、ウグイスは一日中、さえずり公園を訪れた人たちの癒しとなっています。「ウグイスや声はすれども姿は見えず」と言われますが、正にその通り。

いかに環境を守り、育てていくかが問われる今日、それを実践し、育むことや環境美化推進にスタッフ一同邁進しています。

モミジの幼木もすくすく成長し、日々緑の一翼を担っています。また、その予備軍が待機中で、将来は桜と紅葉の立神峡としての地位を確立すべく奮闘中です。この時期の立神峡は、コロナ禍を避けた人たちが、新緑の下でウグイスの鳴き声を聞きながら心行くまで楽しめるように環境整備に力を入れています。



【お問い合わせ先】 立神峡公園管理棟
☎ 0965-62-1543 FAX0965-62-1546 (8:30~17:30 火曜定休日)



短歌

町民文芸

我が町の連ねる山を見渡せば

一際笑う椎の樹あり

北野津 宮本 未秋

群青を仰ぎみるべし立神の

吊橋はるか夏は広ぐる

北野津 井田 道寛

みどりなす阿蘇にかりし大橋の

姿うるわし震災五年

西野津 古崎スエノ

初端午他県の曾孫スマホ面の

愛しい笑顔に鯉踊る

西野津 古崎 栄子

電線で親を探すや小雀は

ひとり鳴いてるあたり見廻し

吉本 高橋 澄子

俳句

公園に赤いマスクの雉一羽

北野津 宮本 未秋

六月の詠む歌なるや万葉集

北野津 井田 道寛

大空は三密なしに鯉泳ぐ

西野津 古崎スエノ

太陽の歪んで沈む雲の峰

西野津 古崎 栄子

月光の冨へ美しき春の夜

吉本 高橋 澄子

考察 中野重治 愛しき者へ

法道寺 本田 花風

ターキーの名で知られた水ノ江滝子は、当時松竹少女歌劇団のスターだったが、音楽団員の首切りをきっかけに、ターキーをはじめ団員たちの不満が爆発し、二十六ヶ条の要求が、松竹本社に提出される。不当解雇、減給に抗議し、華やかな舞台とは裏腹の待遇をあげ、その改善を要求した。この争議に二百人を超す「レビュー・ガール」たちが加わって、異色の労働争議として話題になった。ターキーをはじめ中心的メンバーが検挙されたがターキーたちはその日に釈放され、応援に行っていた政野も検挙され三ヶ月余りの留置場生活を経験する。起訴猶予となったが、取り調べの焦点は、今後政治活動をやるかやらないかであった。政野は演劇活動に専念すると答えて出てきている。面会者も差し入れもなく、夏服のままで寒さに震えていたという。そこには、政野が中野重治の妻であることが影響したのであろう。

第四十二信で、重治は政野が仙台に公演していくと知って、一本田(重治の故郷・現在の福井県坂井市)の親に会にいつてもうこへ思いが働いている。

政野は、重治の父藤作と東京で会った際、料理上手で家事万端のきちっとしているところ、気働きよさなど、父親には好ましい嫁とつづつたらしい。